

目指す学校像	○昨日よりも今日、少しでも成長させられる学校 ○保護者や地域と連携し、コミュニティの中核となる学校 ○安心・安全できれいな学校
--------	--

重点目標	1 学習指導の工夫改善・充実 豊かな心を育む教育の推進 <学力向上> 2 安心・安全できれいな教育環境の整備 <安心安全> 3 開かれた学校づくりの実現 <開かれた学校づくり> 4 校内研修の充実 <教職員の資質向上>
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標								実施日 令和6年2月13日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	(現状) ・基礎的・基本的な知識・技能の定着については個人差がみられるものの、「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」については、肯定的な回答の割合が90%を超えている。(さいたま市学習状況調査結果) ・授業等における児童の1人1人端末の活用状況については、「ほぼ毎日、週3回以上使用している」が80%を超えている。 (課題) ・不登校等で学校を休みがちな児童に対して、オンライン授業を配信しているが、指導要録上の出席扱いとなっていない場合がある。 ・教室以外の児童の居場所として保健室が多く利用されている。	基礎学力の向上とICTを活用した授業実践。	① 年度当初に自主学習の取組について、児童や保護者に周知する(4月) ② 業前の学習タイムにノートやプリント、タブレット等を活用し一人ひとりの学びに合わせた反復学習を行う。(年間) ③ デジタル教科書を活用したGSの授業実践を行う。(通年)	・業前の学習タイムにノートやプリント、タブレット等を活用し一人ひとりの学びに合わせた反復学習を年間通じて行う。 ・保護者の学校評価「一人ひとりに応じた授業の工夫」で肯定的評価について前年度を超える。(R4年度84%)	・業前の学習タイムでは、各学年が児童の実態に応じて、プリントやタブレット端末を活用したドリル学習を実施することができた。 ・保護者の学校評価「一人ひとりに応じた授業の工夫」における肯定的評価が72%と、前年度を下回った。	B	・業前の学習タイムでは、基礎基本の定着に向けた漢字や計算を実施することができたが、全国・市学習状況調査の結果からは、これらが活用できていない状況が見られるので、授業とのつながりを意識しながら実施する。授業参観等を通して、個に応じた授業実践を保護者に公開していく。 ・別室登校のための学習室の設置にむけて教職員で、場所や学習環境等を検討し、4月から開設できるよう準備を進めている。	・授業の様子から、児童は落ち着いて学校生活を送っていることが分かる。教室の掲示物も工夫がされており、教師の教育に対する熱意も伝わってくる。  ・大久保小学校の先生方が、一人ひとりの児童を大切に教育活動を展開しているので、安心して	
2	(現状) ・学校評価の「困ったときや悩んだときに、近くの大人や友人に相談している」という質問において、肯定的な回答をした児童が80%、保護者が89%である。 ・学校評価の「健康や安全に気を付ける意識や態度が育っている」という質問において、肯定的な回答をした児童が94%、保護者が95%である。 (課題) ・児童や保護者等の困りごとについて、小さなことでも早期に相談、迅速な情報共有、対応する体制を更に充実させる必要がある。 ・不審者侵入を含めて、危機管理対応の更なる見直し、訓練を図る必要がある。	児童一人ひとりへの細やかな教育的支援・相談に向けた校内体制の充実  安全な生活の実現に向けた教育活動の充実	① 教育相談日を保護者に周知し、どんな小さなことでも、相談できる体制を整える。(4月) ② 一人ひとりの状況にあった支援を適切に行うため、SC、SSW、さわか相談員等の専門職を含めたケース会議を定期的に行う。(毎月1回程度) ① 毎月、安全点検を確認するとともに、適切な修繕を計画的に進めるため、事務職員と共に進捗管理を行う。(通年) ② 予算を計画的に執行するとともに校長マネジメント枠により増額した消耗品費を有効活用し教育環境の整備に努める。(2月末)	・毎月の生徒指導・特別支援教育委員会で、児童一人ひとりの状況を確認し、全教職員で共通理解する。 ・連絡帳や電話、forms等を活用し家庭との連携を密に行い、迅速で丁寧な対応を行う。  ・保護者の学校評価「安全確保、安全対策」で肯定的な評価を前年度と同水準にする。(R4年度93%)	・児童一人ひとりの状況を把握するために、毎月の生徒指導・特別支援委員会の開催、必要に応じてケース会議を実施し、全教職員での共通理解を図ることができた。 ・家庭との連携を密にするために、連絡帳や電話、Forms等を活用して、丁寧に連絡・相談することができた。  ・保護者の学校評価「安全確保、安全対策」における肯定的評価が83%と、前年度を下回った。 ・予算の状況について、学校運営協議会で説明することで、透明性のある予算執行を実施し、また校内環境の整備について、意見をいただくことができた。	A  B	・校内での教職員間での共通理解・共通行動とともに、SCやSSW、その他の外部機関とも連携を一層密にするこで、児童の実態を的確に把握して細やかな指導・支援を行う。  ・安全について、特に登下校に関して、保護者や地域の方からも意見をいただき、教室での指導を徹底するとともに、学校運営協議会やSSN会議等で話し合い、学校・家庭・地域で見守る体制づくりに努めている。	・登下校に関して、特に下校時に学校が終わった解放感からか、危険と感じるような道路での様子を見かける。教室等で指導をしてもらっているのに、引き続き、情報を共有しながら地域でも見守ってほしい。 ・PTAとして、朝の旗振り当番だけでなく、下校時の見守りにも協力して、できるだけ多くの目で児童の安全を守ってほしい。 ・学校予算の執行状況がわかった。以前の修繕の要望も対応していただき、教育環境の整備が見える。	
3	(現状) ・令和4年度、学校運営協議会を年間3回開催した。 ・年間4回の授業参観や運動会、たんぼぼコンサートなどの学校行事を実施し、保護者に教育活動の状況について参観してもらうことができた。 ・小中合同研修会をオンラインで年間3回実施した。 (課題) ・教育活動の情報発信について、デジタル化を進める。 ・スクール・コミュニティ推進のために学校運営協議会を更に充実させる。	スクール・コミュニティを推進し「ふるさと大久保を愛する子」の育成	① 保護者や地域の方、特に防犯ボランティアの方との連携を図るため、学期当初の登校指導や一斉下校を実施する。(年間3回以上) ② 地域、保護者の方が、いつでもどこでも学校の様子がわかるように、学校便り、学年だより、保健だより等、学校ホームページに掲載する。(毎月) ③ 学校運営協議会等を通して積極的に地域、家庭に情報を発信し活動の周知、協力を進める。(年間3回)	・保護者への学校だより等の紙配布を廃止し、ホームページに掲載する。 ・保護者の学校評価「分かりやすく学校の様子を伝えている」が前年度と同水準にする。(R4年度92%) ・小中合同研修会を年3回実施し、地域ぐるみで基本的生活習慣の定着、授業規律の徹底のための取組等を行う。	・学校だよりや学年だより等、学校から毎月発行されるお手紙を、学校ホームページに掲載することができた。 ・保護者の学校評価「分かりやすく学校の様子を伝えている」における肯定的評価が、78%と前年度を下回った。 ・小中合同研修会を年3回実施し、学力の向上に向けた授業参観・協議会のほか、学力向上カウンセリング訪問を合同で実施して、学習・生活について共通理解を図ることができた。	B	・教育活動の情報発信の手段として、学校ホームページの各種だよりの掲載を行ったが、学校評価の保護者の意見から、「学校の様子が伝わりにくい」、「ホームページからではわかりにくい」等があったため、紙での配布等もあわせて検討している。 ・大久保中学校区の三校において、教職員間・児童生徒間で交流や研修、教育活動を深めることで、地域全体の教育力の向上に努める。	・今年度から定期のおたよりを学校ホームページ配信となったが、地域に関しては、従来通りに紙媒体での配布をお願いしたい。  ・小学校と中学校の参観から、学習・行事等様々な活動においてしっかりと連携をしていることが分かった。保護者・地域としても、協力をしていきたい。 ・小・中学校の連携を、さらに精選・強化していきたい。	
4	(現状) ・これまでに、算数や体育について校内研修を行い、その成果を「大久保スタンダード」としてまとめ、日常的に活用している。 ・職員会議や研修等の会議を公務用端末を活用してペーパーレスで実施している。 ・高学年の教科担任制を実施している。 (課題) ・ICTを活用した探究的な授業について、研修を深めていく必要がある。 ・時間外勤務の縮減に取り組み、教職員が健康で働きがいのある職場環境づくりを図る。	校内研修や授業実践を通じた教師力の向上と教職員がやりがいをもち、健康で能力を最大限に発揮できる環境づくり	① さいたまSTEMS教育を踏まえ、体育について校内研修に取り組み、DXツールを活用し探求的な学びを展開する。(通年) ② 教科担任制の実施により、教員の専門性を高めるとともに、授業の質の向上を図る。 ③ キャリアナビ等を活用し、教職員の様々な研修会への参加を奨励する。(通年) ④ 毎週水曜日をノー残業デーとする。(通年)	・ICT等を活用した授業研修を全教職員が年1回以上実施する。 ・さいたま市教員等の勤務に関する意識調査「やりがいや満足感を感じている割合」が肯定的評価90%を超える。	・ICT等を活用した授業を、全教職員が日々実践することができた。 ・毎週水曜日をノー残業デーに設定し、教職員に声かけをして啓発することで、退勤時刻を意識して業務の調整を図ったり、教職員それぞれのライフスタイルに合わせて、勤務日や内容に軽重を図って業務に当たったりしていた。 ・自己評価面談等を活用して、教職員に研修会への参加を奨励することができた。	A	・ICTを活用した授業実践をさらに深化させ、個別最適な学びとなるよう研修に努める。 ・時間外勤務時間は、全体で昨年度とほぼ同様のため、さらなる縮減に向けて勤務時間の見直しを検討している。	・社会の変化に伴い、学校の教職員が多忙であることは理解しているので、協力をしてほしい。  ・プールの管理について、学校でなく民間への委託ができれば、予算等も含めて負担が軽減されるのではないかと。	